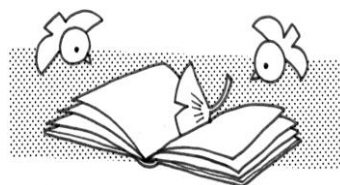


御小図書館だより



No.9 司書教諭 宮田 留美

読書感想文の紹介

夏休みの読書感想文コンクールには、全校で 182 編とたくさんの応募がありました。その中で、小笠地区の審査を経て特選に選ばれた作品（4 編）を紹介します。

『ぼく、まっっているから』 正岡 君子 作

『ハナちゃんのとまと』 市川 里美 作

『かあちゃん取扱説明書』 いうみく 作

『ぼくは満員電車で原爆を浴びた』

米澤 鐵志 著
由井 りょうこ 文

ともだちってすてきだね

一年 大澤 野乃

わたしは、このほんのたいめいをよんで、だれをまっっているのだろうとおもいました。ねずみくんがまっっていたのは、なのはながだいすきなくまくんでした。だけど、くまくんは、ふゆになるとねむってしまいました。ねずみくんは、

「ゆきがとけたらまたあえる。はるになったら、またあえる。」

わたしは、だいすきなともだちにあえなくなってしまう、ねずみくんがかわいそうだなとおもいました。わたしもほいくえんのとてき、おとうとがうまれて、ほいくえんにいけなくなりました。そのときでもさみしかったです。でも、「はるになったらまたあそぼうね。」とやくそくしました。だからねずみくんとくまくんといっしょだなとおもいました。

ねずみくんは、くまくんのために、くまくんのだいすきななのはなをうえました。くまくんがめをさましたら、にわじゅうがなのはなばたけになっていました。くまくんはともうれしかったとおもいます。だいすきなねずみくんにあえたからです。そして、ねずみくんがなのはなばたけをつくってくれたからです。わたしは、はるにともだちにあえたとき、とてもうれしかったです。

このおはなしでいっしょにやったのは、ともだちのためにいっしょにやろうとあげることがいいなとおもいました。わたしもねずみくんのように、ともだちによるこんでもらえることがしたいです。

そして、もしねずみくんといっしょにくまくんをまってるなら、つぎのはるは、なのはなとチューリップをうえてあげたいです。そしてくまくんのよるこぶかおがみたいですよ。

ハナちゃんとわたしのトマトづくり

二年 山崎 樹里杏

わたしは、ハナちゃんのトマトを読もうと思ったのは、わたしも学校でミニトマトをそだてたからです。まい日、水をあげたので、おいしいミニトマトができました。だからハナちゃんも、どのようにトマトをそだてていったのか、読んでみたかったです。

この本には、ハナちゃんとおばあちゃんができて、いっしょにミニトマトをそだてていき、さいごにかぞくみんなでミニトマトなどのやさいをおいしく食べたことが書いてありました。

ハナちゃんが、ミニトマトをそだてていくとちゅうには、虫がはっぱをたべてしまったり、たいふうがきたときにはトマトがたおれないように、おばあちゃんやがくいをうったりしてとてもたいへんそうでした。わたしは、ハナちゃんがんばれと思いました。わたしがミニトマトをそだてたときにもたいふうがきて、そのときにはトマトがぜんぶおちてしまいました。とてもざんねんでかなしかったです。でもハナちゃんのトマトは、たいふうがいつてしまったあと、どどん赤くなり、あまくておいしいトマトにそだててとてもうれしかったです。そだったトマトなどのやさいでハナちゃんはおちそうをつくりました。花やうさぎのかたちになったやさいはとてもおいしそうに見えました。わたしも、おばあさんやおばあちゃんにきりかたをおしえてもらって、トマトを花のかたちにきってたべてみたいですよ。そうすれば、そのままたマトをたべるよりももっとおいしいと思います。

トマトをなえからそだてるのはとてもたいへんですが、わたしもハナちゃんがいっしょにねんもおばあちゃんといっしょにトマトをつくりたいなと言ったように、やさいなどをそだててみたいと思います。こんどは、おいしいやさいがたくさんとれるようにもっとがんばります。

「かあちゃん取扱説明書」を読んで

三年 小泉 麻緒

おかあさんのとりあつかいせつめい書ってその家その家のおかあさんのせいかくがあるから、全員ちがうと思います。せんたくきとかそうじきならほとんど同じせつめい書でいいけれど、おかあさんは考え方と一人一人ちがうので、せつめい書もちがうと思います。でも、この本のかあちゃんとおわたしのおかあさんちよつとだけにいるところがありました。この本を読んだからおかあさんのことを少しだけ気をつけてかさつてみました。そうしたら、わたしにもおかあさんのとりあつかいせつめい書を作ることができるとおもいました。たとえば、会社から帰っておかあさんにつかれているのでマッサージをしてあげるとすぐにきげんがよくなります。大すきなおふろに入っている時はきげんがよさがマックスなので、おねがい事をする時はこの時がチャンスです。ぎやくにおこっている時は、お父さんよりもつとこわいです。だからそんな時は、いきをひそめてかくれています。おかあさんのとりあつかいは、かんたんなようでもむずかしいのです。

この本の主人公は男の子だけど、けつこうこまかいいろんなかんさつをしてすごいと思いました。かあちゃんのはたらいているところを知りたいと言つて、スパームだかまで行ったこともすごいと思います。わたしの場合おかあさんの会社に行くことはできないので、おかあさんに会社であった出来事などを教えてもらったり、おとうさんと話しているのをこっそり聞いたりします。とりあえずいくつかノートにかじよう書きしてみます。そうしたらおとうさんのとりあつかいせつめい書やおばあちゃんのとりのりあつかいせつめい書も作ってみたいになりました。

この本のかあちゃんは、家の外でのいろいろな出来事に、家の中とはちがった考え方や行動をしていていいなと思いました。だれかのしつぱいをおこらずに、はげましながらいいねに教えてあげたり注意したりしていました。わたしのおかあさんも会社ではきつとそんなふうにおしごとをしていると思います。

とりあつかいせつめい書を作ること、その人のいままでも気づかなかつたことも分かつたりくせも分かつたりしてとてもおもしろいと思うので、わたしも家族の一人一人のとりあつかいせつめい書を作ってみたいと思います。一番先に書きたいのは、うちでかっているねこのビビちゃんです。ちよつと気まぐれだからせつめい書もたいへんになりそうです。

戦争なんて考えられない

五年 大澤 昇平

ぼくは、何とも言えない切ない気持ちになった。
日本が昔、戦争をしていたことは知っていた。しかし、奇跡的に生き残ったあの日の少年が八十才になった今もなお、つらい記憶に苦しみ続けながら生きていることは知らなかった。

一九四五年、春、広島市内にも空襲があるだろうからと、鐵志は妹と疎開することになった。だが、そこで待っていたのは苦しい生活。鐵志は空腹に耐えられず池の近くに干してあったゴキブリのような魚のえささえも食べた。ひもじい毎日と寺でもきびしい生活から精神的に追い詰められ、逃げ帰ろうとした鐵志と妹しかし、そのたびに見つかり先生から殴る蹴るの体罰を受けた。
今のぼくにはあり得ない。想像もつかない。エサを食べるなんて。食べ物には家がたくさんあるし、スーパーに行けばおいしい物が何でも買える。先生からほめられることはあっても、体罰を受けることなんて絶対ない。

そして、一九四五年、夏、鐵志は満員電車の中で原爆を浴びた。一瞬にして何もかもが変わり果て、何を思ったのだろう。激しい嘔吐や発熱を繰り返して、死ぬことすら怖く感じなくなったと言っていた。街は焼け焦げ、何人も人々が道や川に死んでいる。目ごとび出てくる人、ゾンビみたいになっている人。

ぼくには耐えられるだろうか。母や妹を失い何も残っていない中で、この先も生きていきたいと思えるのだろうか。今のぼくは家族がいなければ何もできない。お母さんが死んでしまったら、ぼくも死にたいと思ってしまう。

鐵志は、なぜ生き残れたのだろう。電車の中で大人たちに囲まれていたことや、放射線を吸収していた回虫を吐き出したことなどの幸運も重なったかもしれない。でもそれ以上に、鐵志の生きたいという思い、次代を担うぼくたちに戦争の恐ろしさを伝えていかなければならないという責務の思いが鐵志をここまで生かしたのだと思う。

ぼくは今、あの日の少年と同じ十一才。家族もみんな健康で平和な日々を幸せに過ごしている。これからもこの生活を続けていくのがぼくの願い。もう戦争なんて考えられない。

「争いは争いしか生まない。」

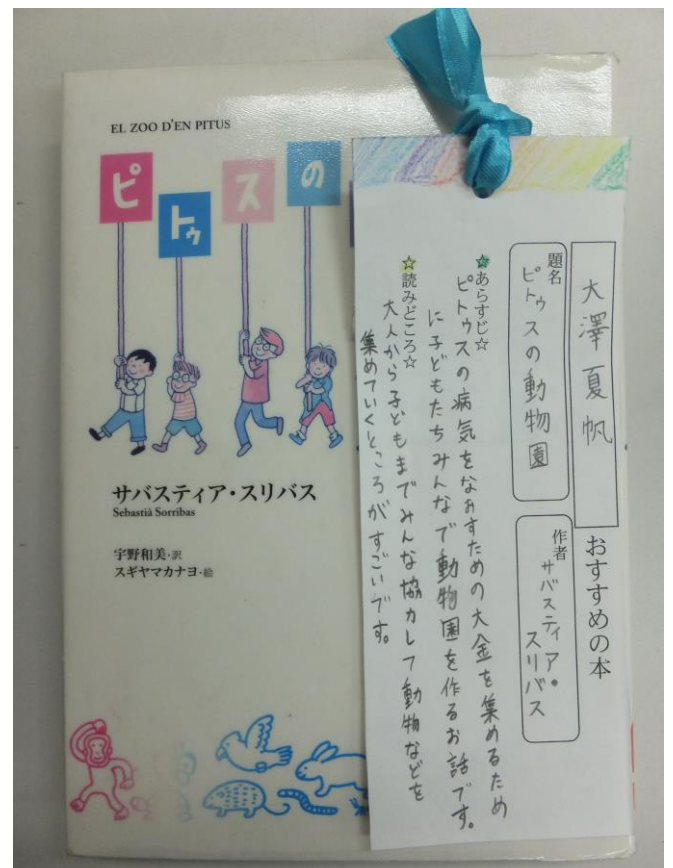
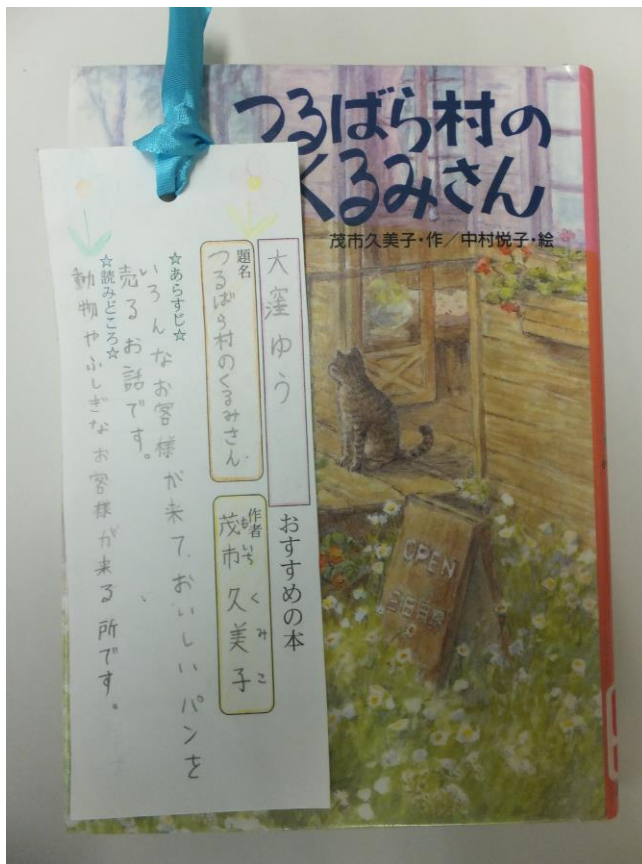
物事を決めていくのに、戦争が最良ではない。ぼくたちは、けんかになったら暴力ではなく、話し合いで解決することを学校で日々学んでいる。そう言っているのは先生や大人たちだ。戦争は暴力と一緒に。力で解決なんてできない。勝っても負けても必ず多くの命を失い、そして、戦争の勝ち負けや、傷あとは永遠に残る。今のアメリカと日本のように。

世界にはたくさんある国、宗教、人種があり、様々な考えがある。ぶつかって当然だ。その度に話し合いをし、理解し合い、それぞれが納得することが解決なのだ。ぼくは鐵志たちの思いを受け止め、変えていきたい。

本の紹介しおり

5年1組が本の紹介しおりを作りました。自分がおすすめの本を1冊選び、本の題名・著者・あらすじ・読んでほしいポイントを書き、その本にはさんでおきました。本を読んだ人は、しおりの裏に、日づけや名前を記入します。

手に取った人が、ぜひ読んでみたいとおもうようなしおりがたくさんできました。



市立図書館アスパル長期休館のお知らせ

市立図書館アスパルは、12月1日～22日まで休館となります。